

2022年度新規採用予定者内定式について

2021年10月1日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は2021年10月1日（金）10時30分から、国立研究所において、「2022年度新規採用予定者内定式」を行いましたのでお知らせいたします。

2021年度の内定式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年度と同様にオンライン形式で行いました。内定式では、渡辺郁夫理事長から新規採用予定者16名に内定を通知し、激励の言葉を贈り、挨拶しました。



写真 内定通知書を読み上げる理事長

理事長挨拶

本日、16人の皆さんに鉄道総研への内定を通知できることを大変うれしく思います。ただ、皆さんに鉄道総研に来ていただき、直接、内定通知書をお渡しできないのが、少し残念なところです。

さて、現在、新型コロナウイルスの影響で大変な状況下にあるわけですが、鉄道総研においても、感染防止の対応をしつつ各事業を進めているところです。研究開発では安全性の向上や、デジタル技術による鉄道システムの革新に資するテーマなどに重点を置き、将来指向の研究開発、実用的な技術開発、鉄道の基礎研究の3つの柱を立て、幅広い分野の研究テーマに取り組むなど、550名の所員が一生懸命に各事業に取り組んでいるところです。来年の4月には皆さんも我々の仲間に加わっていただき、一緒に仕事をしていただけることを待ち望んでいます。

内定式にあたり、私から皆さんに3つのことをお願いしたいと思います。

1つ目は、修士論文の仕上げに全力で取り組むとともに、皆さんの専門分野の基礎力をしっかりと身に付けていただきたいと思います。鉄道事業も含めて社会全体が大きく変わろうとしています。その際の様々な課題に柔軟に対応できる地力を身に付けて頂くことが重要であると思っています。

2つ目は、デジタル技術による革新、いわゆるDXの視点を磨いていただきたいということです。DXは、我々の想定を上回るスピードで、そして、予想を超える領域まで進んでいます。今後、分野を問わずデジタル技術の活用が必須の要素技術となると思います。皆さんは、このような技術に慣れ親しんできた世代です。その感性を是非、研究開発にも活かして欲しいと思っています。

3つ目は、鉄道のユーザーとしての目線を持っていただきたいということです。通学などで鉄道をお客さまとして利用する際に、あるいは鉄道に関するニュース等に接する際に、鉄道技術において課題や改善すべきことはないか、それを解決するために自分はどんな貢献ができるかといった点についても、少し意識するようになっていただきたいと思います。

鉄道総研は皆さんの若い力を必要としています。来年の4月から、皆さんとともに仕事ができることを楽しみにしています。



写真 理事長挨拶